

国連人権高等弁務官、国際高齢者デーでの挨拶

2024/10/01

国連人権高等弁務官事務所

「2050年までに65歳以上の人口は16億人を超え、世界人口の16%を占めることになるだろう。これは、医療、生活環境、社会発展における人類の進歩の成果であるが、一方、高齢者が直面する深刻な課題に取り組むことの重要性を示している。本日の国際高齢者デーを記念し、高齢者が私たちの社会に果たしている驚くほど豊かな貢献を称える。さらなる平和、持続可能、平等な世界を目指す上で必要不可欠である、過去から学び未来を見据える視点を高齢者は持っている。そして、今日は行動を喚起する日でもある。高齢者の尊厳と人権を擁護するという、私たち共通の責任を思い起こし、高齢者が日々経験しているエイジズム（年齢差別）に警鐘を鳴らす。エイジズムとは医療、雇用、社会サービスへのアクセスにおける特有の差別であり、意図的であろうとなかろうと、意思決定からの排除、または技術の進歩の結果としての排除により、高齢者は孤独と孤立を深める。この絶好の機会を活かし、年齢に関係なく、すべての人に対する平等、尊厳、尊重の原則へのコミットメントを再確認しよう。」